

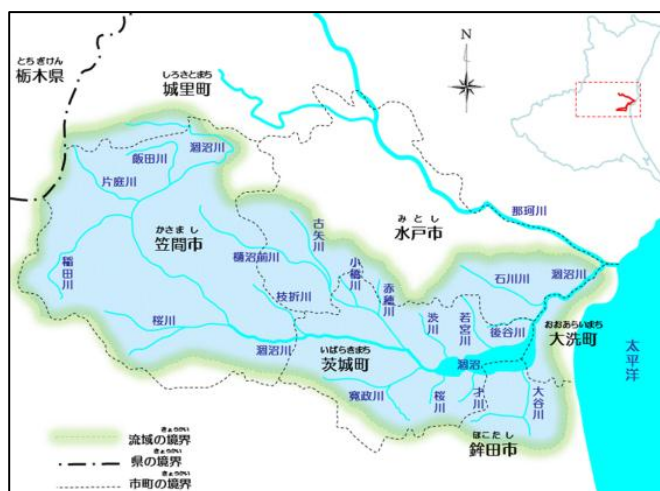
# 涸沼川について 名前( )

## 涸沼と涸沼川について

涸沼は、関東地方でただ一つの汽水湖（海水と淡水が混じり合う）である。2015年にラムサール条約登録湿地となりました。満ちようの時に川が逆流し、海水が流れこむため、海水と淡水がまじり合う全国的にもめずらしい汽水湖であり、ヤマトシジミやマハゼなど汽水域にすんでいる魚や貝などがとれる。

涸沼川は、茨城県の中央部を流れる川である。海へ注ぐと中に涸沼がある。涸沼は、今から約6,000年前、海がじょうしょうしたため、川の出口が土やすなによってふさがれてきたといわれている。

また、ヒヌマイトトンボなどめずらしい動植物のすみかとなっているほか、キャンプ、つり、水上スポーツなどレジャーの場として、たくさんの人々に親しまれている。涸沼の最大水深は6.5m（平均2.1m）湖面積9.35km<sup>2</sup>、湖周約22km、流域面積439km<sup>2</sup>、流域人口約16万人である。流域市町村は6市町で水戸市、笠間市、鉾田市、茨城町、大洗町、城里町である。流入河川は、涸沼川、涸沼前川、寛政川、大谷川、石川川などである。涸沼川は、涸沼に注ぐ主要な河川である。



涸沼流域

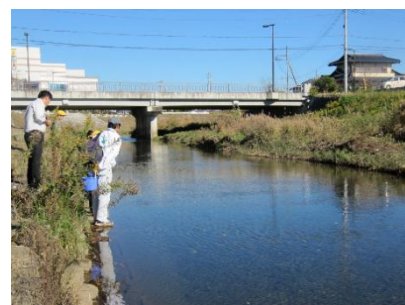
## 涸沼川の源流について

涸沼川の源流は、城里町真端になる。真端は、笠間市と接している。バスをおりて約30分歩くと営林署のかんりする森林に着き、源流近くまで行くことができる。まわりは森に囲まれて静かな場所である。野鳥の鳴き声を聞くことやイノシシの足跡を見つけることができる。



## 笠間市内親水公園について

笠間市の市街地にある親水公園は、岸边はコンクリートではあるが、階段があり水辺まで近づくことができる。



## 大古山橋について

大古山橋は笠間市の南に位置していて、自然が残っています。川の周りには植物がたくさんはえていて、川の真ん中には中州があります。2013年の環境学習ではサケの死がいがありました。



## 親沢（涸沼湖岸）について

親沢は、茨城町の涸沼の湖畔に位置しています。親沢公園は涸沼の景勝地でもあり、徳川光圀がよんだ「親沢の一つ松」の句碑などもあります。ここからはすばらしい景色が見られる。特に、夕日がしずむ時間に親沢から見る涸沼と筑波山がすばらしい。写真をとる人やキャンプ場もあるのでキャンプにおとずれる人もいます。



## 大貫橋について

赤い大貫橋は、大洗町の西に位置しています。両岸ともコンクリートでできた湖岸である。休日はもちろんのこと平日でもたくさんのつりをしている人を見かけるところである。



## 海門橋について

海門橋は、大洗町とひたちなか市（那珂湊）を結ぶ大きな橋である。涸沼川は、この橋の直前で那珂川と合流しており、この川是那珂川である。下流らしく川はばが広く、たくさんの水がゆっくり流れている。満ちしおのときは、涸沼まで海水が流れこむ。

